

第12回化学物質の内分泌かく乱作用に関する日英共同研究ワークショップ

2010年 英国ノーザンバーランド

12th Annual Scientific Workshop

UK-Japan Co-operation for Research on Endocrine Disrupters in the Aquatic Environment

開催プログラム

11月3日(水)

セッション1 開会挨拶

議事及び事務連絡

トム・ハッチンソン (英国 環境水産科学研究所)

日英共同研究の学術的成果と政策への貢献

井口 泰泉 (自然科学研究機構)

セッション2 コアプロジェクト

・コアプロジェクトー1：家庭排水及び河川中の内分泌かく乱活性の調査

田中 宏明 (京都大学)

南山 瑞彦 (土木研究所)

アンドリュー・ジョンソン (英国 生態・水文学センター)

・コアプロジェクトー2：小型魚をモデルとした化学物質及び作用様式の内分泌かく乱作用の評価

長江 真樹 (長崎大学)

イオアナ・カチアダキ (英国 環境水産科学研究所)

・コアプロジェクトー3：淡水魚における外因性エストロゲンに対する感受性の違い及び甲状腺ホルモンに対する生物種間の応答性の違いを理解するための分子生物学的アプローチ

宮川 信一 (自然科学研究機構)

アンケ・ランゲ (英国 エクセター大学)

・コアプロジェクトー4：野生の水生生物 (ローチ及びトノサマガエル) における内分泌かく乱物質の個体群への影響

小林 亨 (静岡県立大学)

パトリック・ハミルトン (英国 エクセター大学)

セッション3 招待講演

- ・ 魚類の繁殖に及ぼす内分泌かく乱物質と水圏温暖化の複合影響
征矢野 清（長崎大学）
- ・ 魚類に対する内分泌かく乱物質及び新たな汚染物質の影響を理解するためのシステム
バイオロジーの適用
チャールズ・タイラー（英国 エクセター大学）
- ・ 化学物質の内分泌かく乱作用に関する今後の対応：EXTEND2010
山崎 邦彦（環境省）
- ・ OECDテストガイドラインプログラムの最新情報
ピーター・マッテセン（OECD VMG-eco 座長）
- ・ 政策が必要とする科学的証拠の本質的役割
ディビッド・ウィリアムズ（英国 環境・食料・農村地域省）

講演後、各コアプロジェクトの課題に関する討論

11月4日（木）

セッション4 今後の日英共同研究

- ・ 今後の日英共同研究プロジェクト及び日本と英国に必要な新たな政策について総合討論

ワークショップ総括

- トム・ハッチンソン（英国 環境水産科学研究所）
- 井口 泰泉（自然科学研究機構）
- マイク・ロバーツ（英国 環境・食料・農村地域省）
- 山崎 邦彦（環境省）

閉会